

全地連「技術フォーラム'98」東京大会報告（その2）

研修委員 高見智之

第9回技術フォーラムは平成10年9月17～18日の2日間にわたって東京の虎ノ門パストラル（農林年金会館）で開催された。行事内容として、特別講演2編、技術発表会（一般発表130編、テーマ発表22編）、全地連報告（1部、2部）、展示会、技術者交流懇親会があった。

【第1日目 9月17日（木）】

(1) 開会あいさつ

全地連の技術委員長の大矢氏から開会の挨拶があった。挨拶の中で、昨今の厳しい社会情勢の中で地質調査業の社会的使命が強調されるとともに、不況時に技術革新が進むこと、マルチメディアによってまったく新しい社会ができることなど、示唆に富むお話があった。

(2) 特別講演 I 「日本列島の起源、進化、そして未来」

特別講演は、東京大学大学院 総合文化研究科 教養学部広域システム科学系教授の磯崎行雄氏により、最新の地球科学の知見から日本列島の起源・進化・そして未来と題して講演された。磯崎先生は関西御出身で、弁説さわやかにプレートテクトニクス、付加帯のテクトニクスについて非常にわかりやすく説明された。この中で、我々が昔ならった日本の地帯構造区分や地質構造などの考え方が大きく変わったことが

示された。日本列島規模の構造の解釈や地球規模のダイナミクスの解明に、フィールドでの地道な丹念な調査が基礎となったことが強調されていた。特に堆積速度の著しく小さいチャートなどの深海底の堆積物の構造解析には、微化石による緻密な調査が必要だったようだ。日本の中古生界の従来の考え方を、自分の信念で批判を恐れることなく、書き換えられたことに対しては敬意を抱いた。

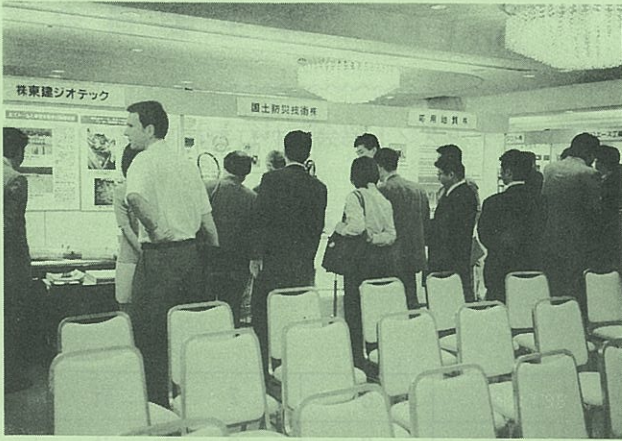
(3) 技術発表会

初日の発表会は、5つの会場にわかれて、一般発表、テーマセッションが行われた。各会場で熱心な討論が行われ、一部では立見ができるなど、熱気にあふれていた。個々の発表内容については、立派な講演集が印刷されているので、これを参照していただきたい。全体を通して、若手の発表が多く、失敗を恐れずいろいろな新しい試みにチャレンジされていることがよくわかった。

(4) 技術者交流懇親会

18:00から恒例の懇親会が全体会場で開催された。建設省などの来賓の挨拶のあと、日中の真剣な表情とうってかわって、なごやかなムードでベテランと若手、地方、中央、入り交じって歓談の中で交流が進められた。

吉野善理大和会



展 示 会



会 場 : 受 付 風 景



展 示 会



一 般 発 表